

施設の紹介

クリーンセンター花房では、菊池市・合志市・大津町・菊陽町の各家庭等から排出されたし尿や浄化槽汚泥等を、法律で定められた排出基準値以下の良好な水質に処理し、菊池川に放流しています。また、処理過程で発生する汚泥を堆肥化し、汚泥発酵肥料「はなぶさ育ち」として農地に還元しています。

施設の名称 クリーンセンター花房

所在地 〒861-1315 熊本県菊池市木柑子^{きこうじ}1 2 9 4 番地

0968-24-0065 Fax0968-24-0067

敷地面積 1 1 , 4 8 2 m²

延床面積
処理棟 3 , 7 4 9 . 6 0 m²
管理棟 5 9 8 . 3 8 m²
計 4 , 3 4 7 . 9 8 m²

処理方式 水処理：膜分離高負荷脱窒素処理方式(浄化槽汚泥対応型) + 高度処理
資源化：堆肥化 (1 次発酵 1 4 日間・2 次発酵 3 0 日間)

処理能力 水処理：9 6 k l / 日 (し尿 33kl/日、浄化槽汚泥 63kl/日)
資源化：9 4 3 k g / 日 (汚泥発酵肥料)

工期 平成 1 5 年 1 0 月 7 日 ~ 平成 1 7 年 1 2 月 2 8 日

発注方式 性能発注

事業費

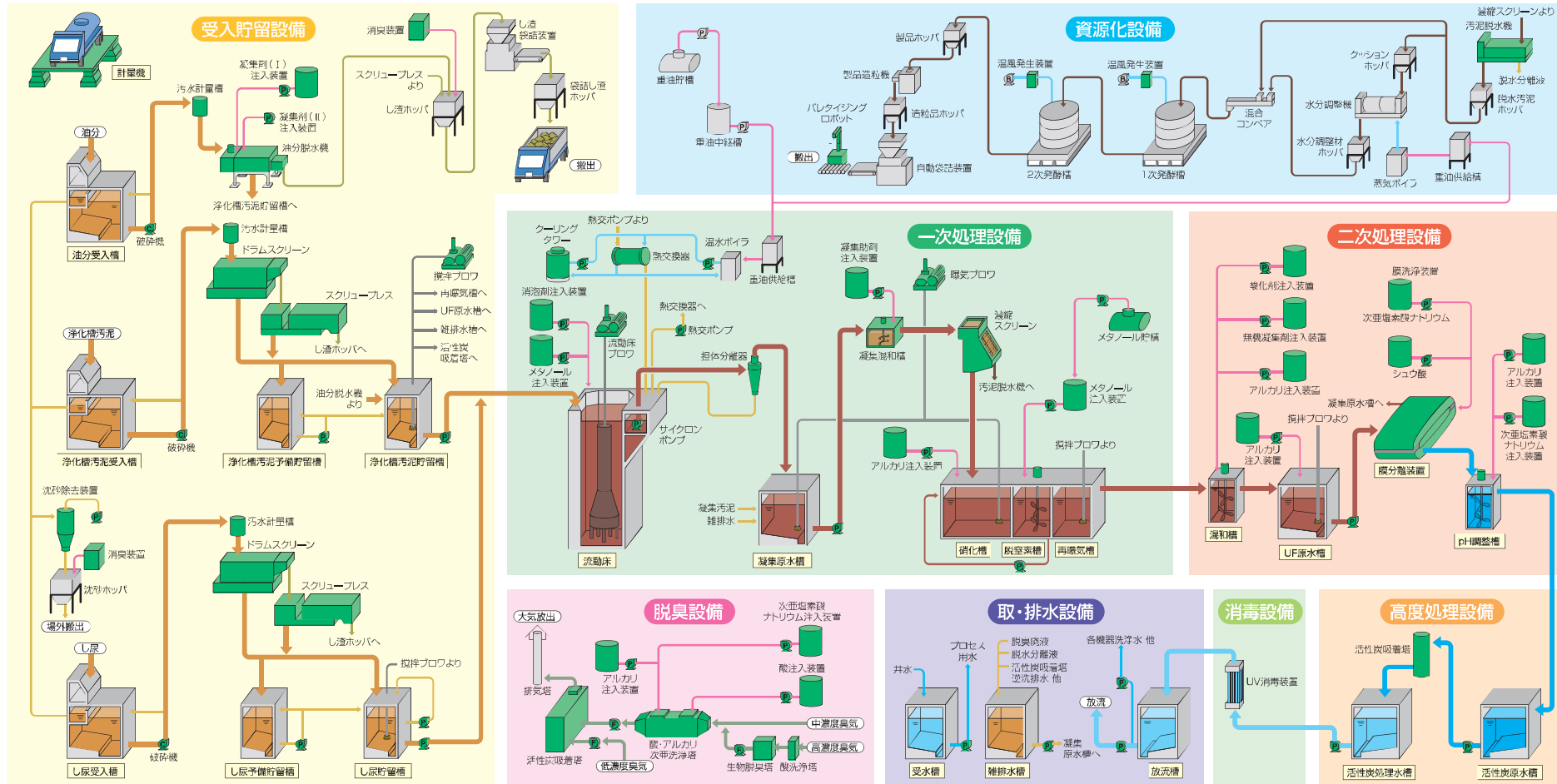
単位：千円

事業費	本体工事	3,410,400	財源内訳	国庫補助金	773,458
	付帯工事	88,488		地方債	2,397,100
	施工管理	20,444		一般財源	348,774
	合計	3,519,332		合計	3,519,332

処理フロー

処理施設の概要

フローシート



■受入貯留設備
搬入されたし尿及び浄化槽汚泥に含まれる砂礫やその他の夾雑物を除去することで、以降の機械的なトラブルをなくします。また、除渣後のし尿などを貯留槽に一時貯留することにより、し尿などの均質化、収集量の日変化や時間的変化を吸収し、次工程以降の処理の安定を図ります。

■一次処理設備
流動床を中心とした生物処理工程です。槽内を流動する担体を核として生成する微生物により、し尿(浄化槽汚泥)中の有機物とアンモニアの分解は同時に行われます。ここで大部分の生物化学的酸素要求量(BOD)や総窒素(T-N)などが除去されます。

■二次処理設備
一次処理水に凝集剤などを添加し、膜分離装置を通過させることで更に汚濁物質を除去します。

■高度処理設備
二次処理水に残存する微量の汚濁物質を、活性炭吸着により取除き、きれいな処理水とします。

■消毒設備
高度処理水に紫外線を照射することで、大腸菌などの細菌類を殺菌し安全な水として河川に放流します。

■取・排水設備
施設内で使用するプラント用水は井戸より取水し、必要箇所へ給水されます。また、施設内で発生する雑排水は、全てし尿などと共に処理されます。

■資源化設備
水処理工程より発生する汚泥は、水分を調整後、発酵させて堆肥とします。製品は袋詰めされて農地などに還元されます。

■脱臭設備
施設より発生する臭気は濃度別に捕集します。高濃度臭気は活性炭による生物脱臭を行い、中濃度臭気は酸及びアルカリによる薬品洗浄後、活性炭による吸着を行います。また、低濃度臭気は活性炭による吸着でほぼ無臭にし、大気へ放出します。

クリーンセンター花房からのお願い

トイレには、し尿及びトイレットペーパー以外のものは流さないで下さい。

タオルや生理用品、金属類等が入ると、センター内の機械の故障の原因になり、処理ができなくなりますので、ご協力をお願いします。

浄化槽へ食用油等の油分は出来るだけ流さないで下さい。一般家庭の天ぷら等の廃油は、凝固させて可燃ごみとして出しましょう。油分によりし尿処理に必要な微生物が死んでしまい、し尿処理に支障をきたしますので、ご協力をお願いします。